

# 教務だより

2018年5月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 犬との攻防(2)

茗溪塾塾長 宇野 雅春

15年前の「教務だより」に「犬との攻防」という文を書きました。「合格への道しるべ」という本にも載せてありますが、その続編です。黒いラブラドルレトリバーを飼うことになった顛末については、15年前の文章に書いてあります。「喜びは2倍ですが、苦しみは3倍ですよ。」という忠告も無視してその後白いラブラドルも一緒に飼っていました。

なぜか彼らは人を見るし空気を読みます。私を主人と認識しているらしく私がいるときは静かにしています。私の機嫌の悪い時はひっそりと息をひそめ、いないときは、いろいろ悪さもしたようでした。2匹とも同じ動作をすることも多く、今年の正月には年賀状にそっくりな姿で並んで寝ている2匹の写真を印刷しました。でも黒のラブラドルは15歳、白が13歳…。月日がたつ中で当然のごとく私たちは、老犬の介護という問題に直面しました。

白ラブは夜中や明け方に吠えたりするようになりました。黒ラブの方は失禁が多くなり、夜は、いつでもトイレに行けるようにケージの鍵もしなくなりました。高熱で入院したことも、自傷行為で一時的な治療のために毛を刈って痛々しい時期もありました。私達より先に老いていくのがペットです。

黒ラブの方はこの一年くらいは、歩くのも辛そうな時もありましたが、食欲だけはあったと思います。それが先日突然、食べたものを吐いて、そこから食べ物を受け付けなくなりました。コンビニに行って一番高い缶詰を買って食べさせてみたら、ぺろりと食べたので「なんだおいしいものなら食べるじゃないか」と思っていたらやはり、もどしてしまいました。いよいよダメかと思い水を与えるとぺろと飲みましたが、それも後で戻しました。

飼い始めた時、子犬なのに、スチールでできた囲いのねじをすべて抜きさき一瞬にして囲いを崩した事、一瞬でねじをはずす技にみんなびっくり。テーブルの脚やいすのひじ掛けをかじり続け、かなり頑丈なテーブルセット一式をダメにしたこと、初めて海にいったとき、自分から飛びこんで泳いだこと。喜ぶとスリッパとか洗濯ものを咥えて登場、ラブラドル本来の運ぶという習性を見せつけたこと。でもクリスピーは出来なかったこと。ドアを自分でノブを使ってあけること。台所を走り抜けながら、軽く飛び上がり音もたてずに獲物を咥えたまま走り去ったこと。何度も何度も寄ってきては右手で「お話ししようよ」的に膝を撫でてきたこと。リビングの床にぺたりと這いつくばって動かなくなっている姿を見ると、次々と色々なことが思い出されます。

思い立って「医者に行こう。」と予定していた朝、あいにくの雨、午後晴れたら一人で連れていくという我が家の母親に託して、仕事に出る直前、床にへばりついて動かない黒ラブの頭をそっと撫でました。すると、弱々しくですがしっかりとしっぽを振りました。「ありがとう」なのか「頑張れよ」なのかとふと思ったのですが、これが黒ラブとの最後になりました。その日黒ラブは病院行ったところで息を引き取りました。いいことも悪いことも共有すること、それが家族ということ。「犬との攻防」は、たくさんのことを教えてくれた気がします。